

日本語スピーチ発表会と私の生き方



タマサート大学で講義中の筆者

日本語スピーチ・コンテスト優秀者発表会 1987 年タイ代表
ドゥアンチャイ・ロータナワニット

Duangjai Lorthanavanich

(タイ・タマサート大学商学部 准教授)

人生の転機になったタイでの優勝

私は 1987 年に日本で第 2 回日本語スピーチ発表会(日外協主催)にタイ代表として参加しました。1987 年は日・タイ修好 100 周年であり、タイと日本との関係をもっと良くしたいという思いから、私はタイで行われた日本語スピーチ・コンテストで「日・タイ修好 100 周年にあたり日本・タイに望むこと」をテーマにしました。

日本語スピーチ・コンテストに挑戦する時、タマサート大学の教養学部日本語学科 3 年生だった私は、日本語だけにとどまらず、タイと日本との関係や、当時タイに進出した日系企業文化とタイ人従業員との考えのギャップ、社会・経済・環境問題などについても真剣に考えるようになりました。日本人の先生方が温かくご指導してくださり、私の中のいろいろなものを引き出していただいたと今でも心から感謝しています。日本語スピーチ・コンテストに向け、原稿を書く段階から先生方に何回も訂正していただいたことなどは、私にとって非常に貴重な時間でした。そして、日本語スピーチ・コンテストに優勝できたことは、私にとって人生の大きな転機になりました。

チ・コンテストに優勝できたことは、私にとって人生の大きな転機になりました。

心に刻まれた初めての日本訪問

日本を訪れたことは今でも夢のようです。日本滞在中に観光で訪れた日光や浅草などの名所の素晴らしさはもちろんですが、やはり実際に出会った日本人の方々を忘れることができません。

ホームステイ先となった重松さんご夫妻、特に奥様は本当に素敵な方でした。また、ディズニーランドに皆で行った時のこと、私だけ帰りのバスに乗り遅れてしまいました。きれいな夢のような世界に夢中になって時間が経つのを忘れていたからでした。でも、親切に案内をしてくれた人がいて、一緒に食事までしてホテルに送っていただきました。その方とは、数年後に来日した時に再会することができました。

日外協の職員の皆様には、日本に着いてから帰国するまでの間ずっと私たちの面倒を見ていただきました。中でも矢野さん(矢野冬生/前・日外協常務理事)はとても温かな方で、いつも笑顔で私たちを見守ってくださいました。

日本を初めて訪れて出会った多くの人たち



タイ出張で訪れた矢野さんと一緒に(右端筆者、1989年)



タイの大会で優勝して日本へ(1987年)